

法人名「あそう」について

「あそう」の名付け親は、町長を6期に亘りお務めになられ平成23年2月にお亡くなりになった 水谷 岩雄 旧山東町長 様と伺っている。

水谷 町長様がどのような思いで名付けて下さったかということについては、今となっては定かではない部分もあるが、現在、社会福祉法人あそうがある辺りの地域が、過去「あそう」と呼ばれていたらしいということだけは確認できた。

そこで、詳しく調べるべく、朝来市教育委員会社会教育課 田畑 課長様に伺ったところ、早速に資料を送って下さった。

以下はその資料からの抜粋である。

【阿相郡】

奈良時代のはじめ、和銅6年（西暦713年）に編纂された「播磨国風土記」の中の神前郡条の記載では「但馬阿相郡」と表記されている。また和銅7年（714）のものと推定される長屋王の邸宅跡から出土した木簡にも「但馬国阿相郡刀我里大贄一斗五升」と記載されており、当時は阿相と呼ばれていたことが分かる。「阿相」の読み方については分かっていないが、そのまま読めば「あそう」と読むことができる。



←和銅7年（714）（推定）「長屋王家出土木簡」・・・「但馬国阿相郡」

当時の朝来（阿相）の範囲は、「播磨国風土記」の記載によれば、生野は播磨国の中に含まれ、但馬国の朝来（阿相）には含まれていないことが分かる。又、昭和31年の町村合併以前は和田山町の大蔵と糸井地区は養父郡であった。このことから、当時の朝来（阿相）の範囲は、北は朝来市役所本庁舎付近を境とし、東は山東町全域を含み、南は生野町を除く旧朝来町南部までの円山川上流域と考えられる。

現在の「朝来」という地名は、奈良時代前半の天平9年（737）に作成された「但馬国正税帳」の中に「朝来」という記載があり、又、但馬国府関連遺跡や但馬国分寺跡（豊岡市日高町）から出土した木簡にも「朝来郡」とあることから、少なくとも737年以前には現在の表記とされたようだ。

このように「あそう」（阿相）という名は、朝来と言われるより前に、呼ばれていた地名であり、市内に所存する池田古墳や城の山古墳、また船宮古墳、茶すり山古墳など、但馬を治めた王の墓と考えられる大型古墳は、すべてこの朝来（阿相）の範囲内に存在していることから、古代

からこの朝来（阿相）の地は、但馬の中でも特に重要な政治的中心地として栄えていたことをうかがい知ることができる。

「あそう」という名前を、あらためて誇りに思うと同時に、歴史的な背景にも感慨を覚える。